

ダイワエクセル めっき加工排水と溶解亜鉛 高精度再生る過装置導入

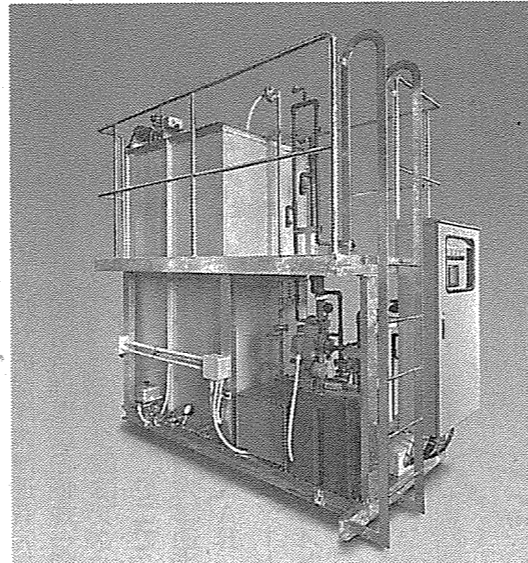
自動車部品の亜鉛めっき加工を手掛ける、ダイワエクセル(本社名古屋千種区香流橋、水野善仁社長、電話052・771・6191)は、めっき加工の工程で発生する排水と排水中に溶解した亜鉛のリサイクルに着手する。2015年2月にも、微細な穴を施した膜で排水を高精度にろ過する装置を豊橋工場(豊橋市)に導入する。投資額は1億円を見込む。豊橋工場でリサイクルの効果を確認できれば、本社工場にもろ過装置を導入する考え。(強田裕史)



水野善仁社長

亜鉛めっき加工は前処理、後処理の工程で加工物を繰り返し洗いで洗浄する。洗浄に使用した排水には亜鉛が含まれている。これまで排水中の亜鉛は高分子凝集剤を使って沈殿物に変え、水中から排出した沈殿物を「汚泥」として

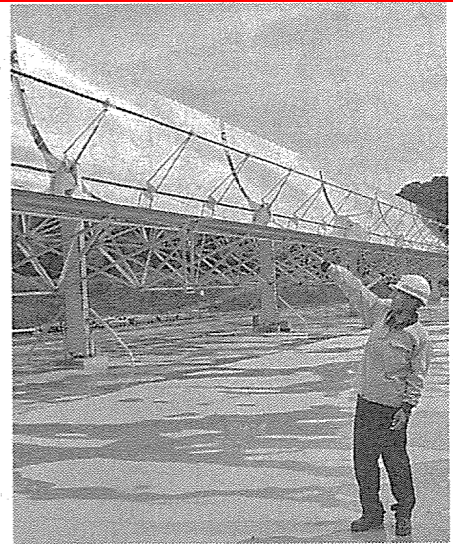
産業廃棄物処理業者に処理を委託していた。しかし、汚泥中の亜鉛の含有率を50%以上に上昇させれば、金属のリサイクルに活用できる。汚泥を資源として再利用するため、高分子凝集剤の使用量を減らし、排水をろ過する工程を組み込むことにした。導入するろ過装置は三菱レイヨンの製品。ストロー



排水と廃棄物の亜鉛をリサイクルするため導入するろ過装置

がある中空糸膜で高精度のろ過を行う。ろ過により、排水から亜鉛を抽出し、抽出した亜鉛の分だけ高分子凝集剤を使用する。ろ過により、あらかじめ水から亜鉛を分離させた分、高分子凝集剤の使用量が減少し、汚泥となる量も大幅に削減できる。また、試算では、ろ過後

の排水の30〜40%が生産工程に再利用できるようになるという。水野社長は「廃棄物を極限まで削減し、環境にも配慮できるめっき加工事業者をめざす」としている。



神戸製鋼所と東芝が実証実験を始めた、太陽熱などを組み合わせた発電装置。22日、兵庫県南あわじ市

三つの再生エネで効率発電

神戸製鋼所と東芝が実証、兵庫で

神戸製鋼所と東芝は22日、太陽熱とバイオマス、風力を組み合わせて効率よく発電する淡路島(兵庫県南あわじ市)の実験設備を報道陣に公開した。天候に

左右されず電力を安定供給できるのが特長で、再生可能エネルギーを「三位一体」で運用するのは世界でも珍しい取り組みという。ボイラーに強みがある神



■軽いタブレット端末 KDDI(a.u)はASUS(エイスス)と開発したタブレット端末「エイスス ミーモパッド エイト」写真を発売した。

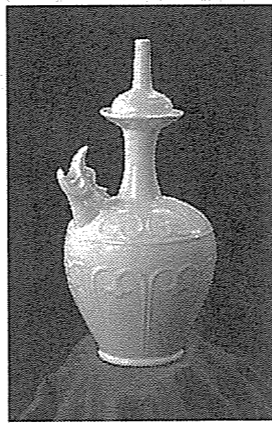
新商品BOX

戸製鋼所と、太陽熱関連の技術を持つ東芝が協力。環境省から補助金をもらって完成させた。出力は70kwで、一般家庭約20世帯の電力を賄える。2014年度末まで実証実験し、事業化を目指す。自治体などに売り込みたい考えだ。設備は「バイナリー発電」と呼ばれ、大型の凹面鏡で

ガンダムモチーフ製品開発 「マ・クベのつぼ」など

ノリタケ、バンダイとコラボ

ノリタケカンパニーリミテドは22日、バンダイ(東京)とコラボレーションして、人気アニメ「機動戦士ガンダム」をモチーフにした製品を開発したと発表した。



「マ・クベのつぼ」

軽、100世帯に52・9台

普及トップは佐賀県

全国軽自動車協会連合会はこの2県は1世帯当たり1台を超えた。3位は長野県

「カップ」の2商品。マ・クベのつぼはアニメの人気キャラクター、マ・クベ大佐が愛蔵する北宋期の白磁のつぼ。アニメに登場したデザインをそのままに、ボインチャイナで再現したという。価格はマ・クベのつぼが